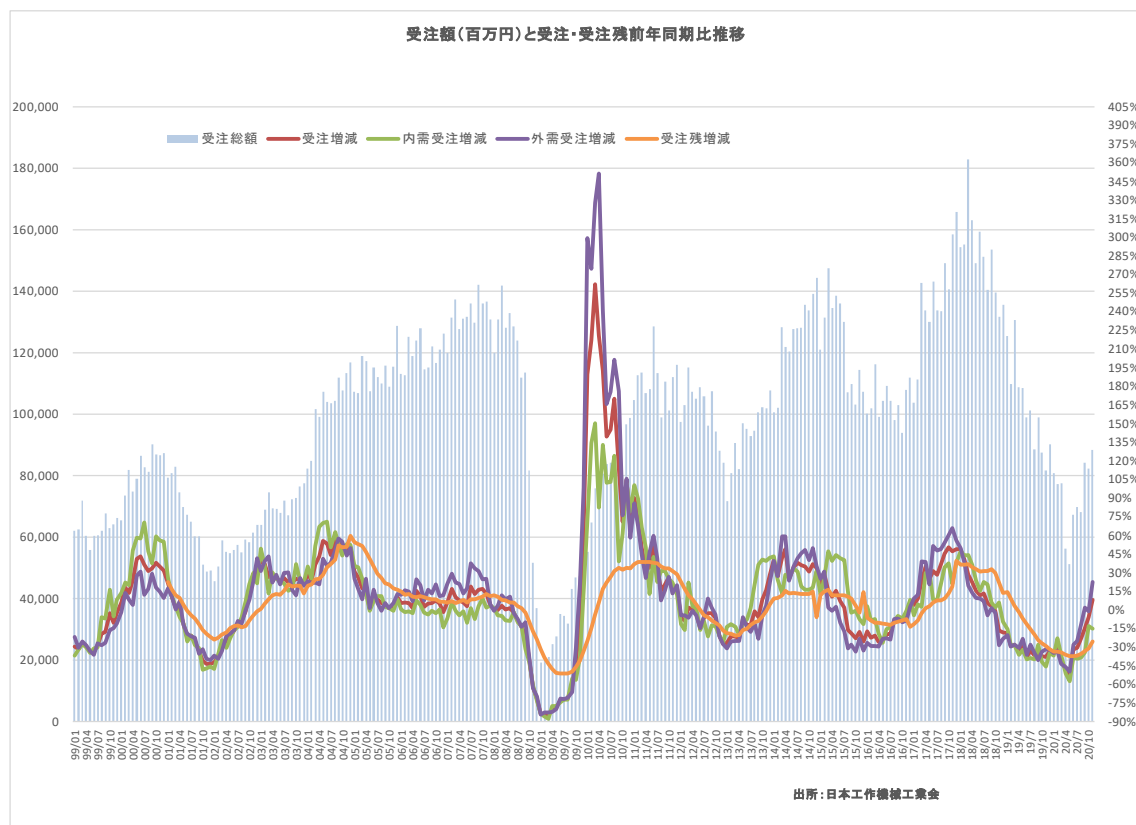


## 工作機械工業会 11 月受注速報 11 月は 8.0% 増と 18 年 9 月以来の同月比プラスに

### 11 月受注は前年同月比 8.0% 増の 882 億円と 18 年 9 月以来の同月比プラスに

12/9 の 15 時に日本工作機械工業会の 11 月受注速報が開示された。11 月受注は前年同月比 8.0% 増の 882 億円と、2018 年 9 月の 2.9% 増以来、26 ヶ月ぶりに前年同月比プラスに転じた。基本的に外需が牽引、国内は厳しさが継続している。



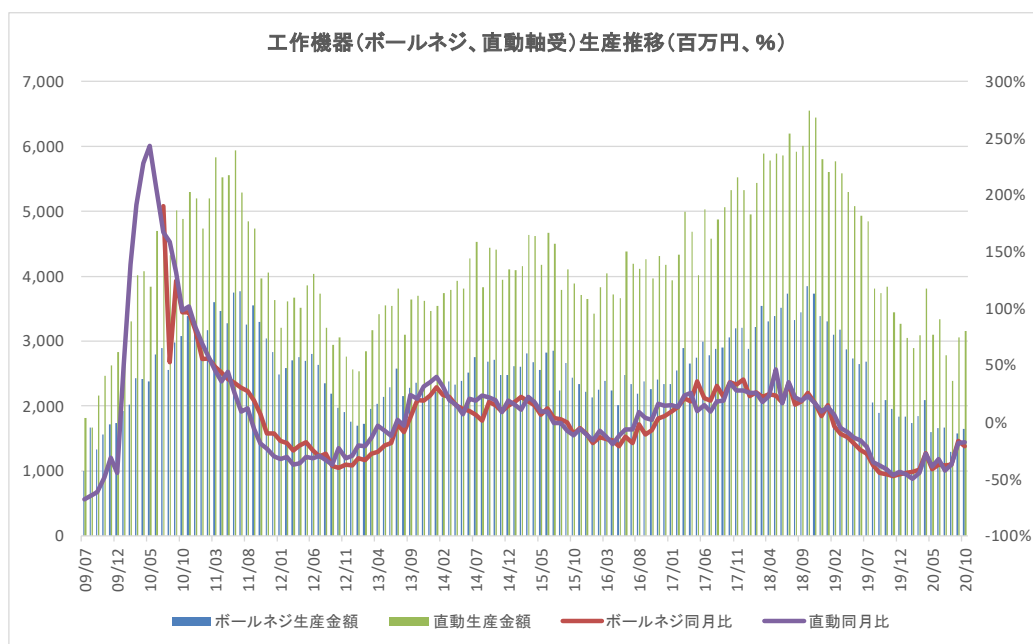
内訳は内需が 266 億円 (15.2% 減) で 24 ヶ月連続減、前月比でも 8.0% 減と振るわない。9 月に期末要素があり以来の 300 億円大台乗せたが、再度 2 ヶ月連続 300 億円割れに。一方外需は 616 億円 (22.5% 増) で、前月比でも 15.6% 増と、引き続き中国増が寄与していると見られる。なお 2020 年 11 月までの累計では総額 8023 億円 (29.6% 減)、内需 2913 億円 (35.9% 減)、外需 5102 億円 (25.4% 減)、工業会が 9/30 に減額した年間予想 8500 億円に対して 94.4% (内需 97.1%、外需 92.8%) の進捗率となっており、年間では 8900 億円 (27.6% 減) 程度になる見通し。国内は第 4 次モノづくり補助金、サプライチェーン対策の国内投資促進事業費などで追加措置、外需は中国の好調に加え、グローバルにトヨタが過去最高の販売数量を記録し、設備投資も 500 億円増額し 1.4 兆円 (2.0% 増) とするなど積極的なことも寄与している模様。但し、昨今の欧米、日本でのコロナ再拡大などでの影響はこれから顕在化する懸念もあり、中国一本足打法では全体の底上げは難しい状況にあることは変わらない。

## 金属加工機械として鍛圧機械受注は低迷、11月受注は前年同月比13.5%減の143.7億円

工作機械と同じ金属加工機械として、鍛圧機械の受注は低迷が続いている。12/8に発表された日本鍛圧機械工業会の11月鍛圧機械受注は、機械全体で前年同月比13.5%減の143.7億円と21ヶ月連続減、国内向けが2019年2月以来21ヶ月ぶりに前年同月比プラスに転じた事もありマイナス幅は減少しているものの、工作機械以上に厳しい状況が続いている。内訳はプレス機械が81.70億円(20.6%減)、板金機械が62.00億円(2.0%減)。国内が83.20億円(0.5%増)、輸出は60.50億円(27.5%減)と輸出の厳しさが目立つ。内訳は台湾・韓国向けが4.5倍も、中国が18.0%減、北米40.7%減、欧州は81.2%減(10月は大幅増)、東南アジア73.8%減と総じて厳しい。

## 工作機械関連機器の工作機器生産、10月はボールネジ、直線運動軸受と低迷続く

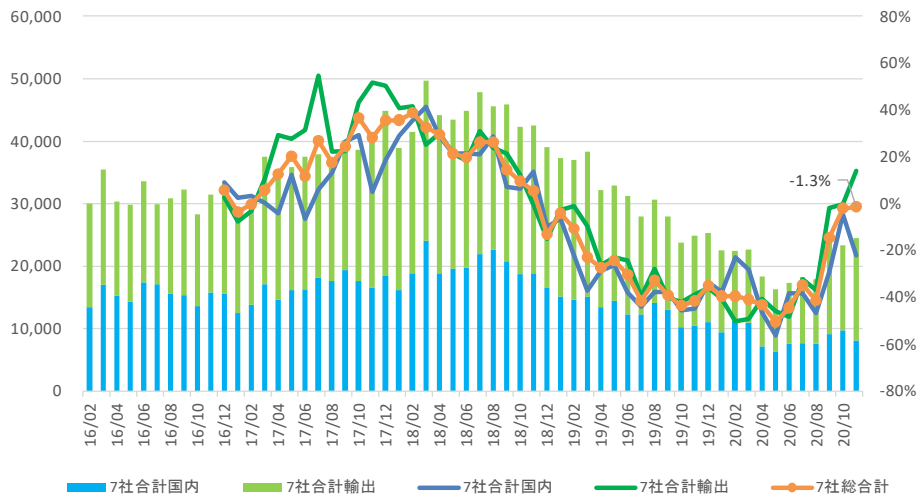
工作機械に関連する工作機器も厳しさが続いている。12/2発表の10月生産では全体で106.6億円(21%減)、ボールネジが前年同月比21.0%減の16.5億円、直動軸受も18%減の31.6億円と依然低水準となっている金額的には昨年秋口の金額をボトムに若干回復傾があるが、工作機械より落ち込みが厳しい。



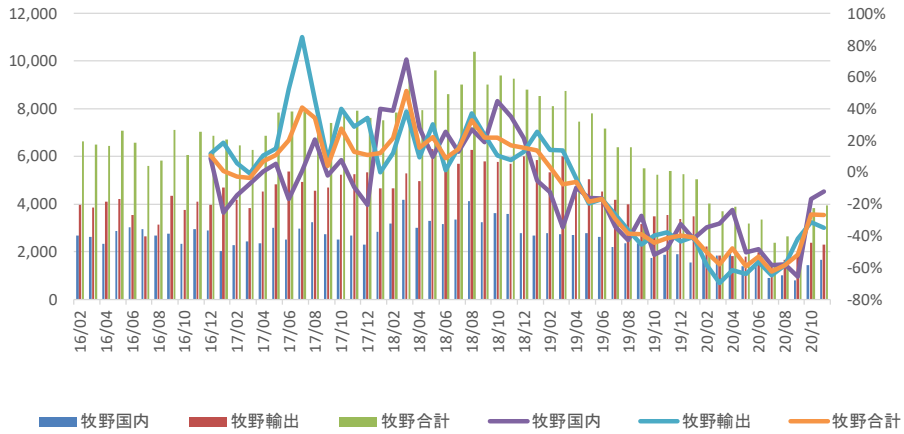
## 主要7社の11月受注は1.3%減の245億円と24ヶ月連続減少とプラスにならず

日刊工業新聞がまとめる主要工作機械7社の11月受注実績(12/10発表)は245.18億円となり、工業会とは異なり、プラスとはならなかった。個別で見ると差があり、牧野フライス製作所27.1%減の39.4億円、芝浦機械28.4%減の10.53億円、オークマ7.3%減の75.67億円、ジェイテクト10.7%減の27.14億円など5社が減少している。一方、ツガミは68.7%増の65.01億円と、海外が85.8%増の59.36億円(国内は14.4%減)と高い伸びを続けている。

7社受注推移(百万円、前年同期比%)



6135牧野フライス



6101ツガミ

